

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	医療福祉経営学分野
学籍番号	20S3073	院生氏名	森次 幸男
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	メディカルアフェアーズの医療貢献について		
審査結果(枠で囲む)	合格 不合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>本研究は、海外で誕生して50年余りの歴史があり、わが国においても2000年頃より導入されるようになった、製薬企業におけるメディカルアフェアーズ(MA)の活動がもたらす医療貢献について、製薬企業及び医療関係者に対して調査を行い、その期待度や満足度を評価測定することで、その実態及び今後の課題について明らかにすることを目的に行ったものである。</p> <p>2) 研究の方法と結果</p> <p>研究方法は、MA活動の医療貢献について、日本国内に拠点を置く製薬企業(研究開発志向型)45社及び日本国内の医師・病院薬剤師142名(調査依頼総数23,000人)に対してWeb配信による調査票調査により実施された。その結果、製薬企業調査において、医療貢献の評価指標は、薬剤のエビデンス構築への貢献、診療・治療ガイドラインへの貢献、臨床的惰性或治療アドヒアランス改善への貢献といった事項が多く、これらの医療貢献の指標に与える因子としては、資本、癌疾患領域の有無が示された。一方、医療関係者に対する調査では、医療貢献に影響を与える活動として、アンメットメディカルニーズの把握、医学・科学的情報の発信・提供の順で多いことが判明した。また、COVID-19によりMA/MSL(メディカル・サイエンス・リエゾン)との双方向コミュニケーション手段が対面からオンラインへと有意に変化した、医療貢献(満足度)への影響は見られなかった。</p> <p>2. 審査経過と口頭試問について</p> <p>審査会は対面で1回行った。著者による論文の内容に関するプレゼンテーションの後、質疑応答がなされた。審査会において審査員からは、①論文タイトルにもある「医療貢献」という用語につき、その意義を明確に定義し、それに基づいてどのような調査がなされたのかについて記述すること、②各製薬企業におけるMA/MSLの定義・設定等の相違について調整ができていないことを「研究の限界」に明記すること、③医療関係者に対する調査につき、外部のネットリサーチサービス会社が用いた調査対象者抽出の手法について記述すること、について修正意見が出された。</p> <p>その後、上記3点について著者から修正済みの論文が提出されたため、審査員が再度審査したところ、適切な修正がなされたという結論に達した。</p> <p>3. 合否結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(医療福祉経営学)の学位を授与すべきものと判断した。</p>			
論文審査担当者	主査	安部 和彦	
	副査	山崎 力	
	副査	島崎 謙治	